

木田精工株式会社

高速めっき処理装置が 自動車部品の性能向上に貢献

- 海外注
納期相
- 力有
自信相
- コスト
相
- ワン
技術
- メイド
イン
ジャパン
- 可
小ロ
- 産
心



鉄を使ったステンめっき

業務内

3億円を投じた 開発プロジェクト

木田精工は、めっき処理設備のプラント製造や表面処理加工を受託している。もともと半導体や建築関連向けのめっき装置を展開していたが、新たな事業として平成12年から環境問題にやさしいシンケート浴をベースにめっき時間を3分の1に短縮できる「ジンガーめっき」の開発に着手。日本表面化学（東京都新宿区）との共同開発で、両社合わせて開発費に約3億円をつぎ込んだ。「大規模な先行投資となつてしまつたが、それで今日がある」と木田潔社長は語る。噂を聞きつけた自動車部品メーカーが同社を訪れ、平成17年から供給を開始。自動車部品メーカーは主要な取引先となり、今ではジンガーめっき装置の販売が同社の経営を支えている。



本社工場

強み 特許や検査体制の 充実が高評価

装置の特許権や実用新案権など、工業所有権は計71件を有している。さらに自社で手がけるめっき加工に対する検査体制を拡充している。9月にめっき加工の検査・管理業務を行う分析室を新たに設け、高精度な検査機器1台を導入した。めっき加工の不良率低減のほか、材料などの厳密な数値を提示することで取引先の信頼を得るねらいがある。こうして取り組んできた新規開発や品質管理の評価は高く、取引先の大手自動車メーカーから平成21年と平成22年の2年連続で表彰されている。「2年連続は

異例ではないか」と木田社長は語る。さらに、平成26年には東大阪モノづくり大賞の銀賞を受賞している。

海外展開

日本メーカーの 海外拠点に製品を販売

約20年前から取引先の半導体メーカーの海外展開に伴い、生産する装置やラインを海外の取引先各社の生産拠点に送り込んでいる。現在はポルトのめっきを得意としており、平成22年にインドネシアに現地企業のガルーダメタリンドと合弁で「インド・キタ・プレーティング（IKP）」を設立。平成24年には工場を増強した。さらにメキシコ進出への準備を始めている。自動車メーカーが集積するグアナフアト州で用地を確保。詳細は今後検討する。従来は日本から仕事にあわせて現地に社員を派遣していたが、駐在員事務所を置いて現地の営業体制を強化する。木田社長は、「海外には公私にかかわらず、積極的に行くべき」と持論を展開する。

今後の展望

次世代製品の育成に力

めっき加工装置の製造・販売とめっき処理加工、めっき加工で排出する溶剤などをリサイクルする無排水装置が経営の3本柱。無排水装置の「売り上げ比率は約10%だが、まだまだのぼしていきたい」と一縷の望みを託す。さらに、次世代の成長分野として期待を寄せているのは、ステンめっき。自動車向けでジンガーめっきが好調なことが牽引し、同社の経営の柱となっているが、それに依存しないポートフォリオを模索する。木田社長は、「住宅メーカーに売り込んでいきたい」と力を込める。

COMPANY PROFILE

木田精工株式会社

大阪26

大阪26

ISO 9001

当社の 歴史

創業は東大阪の30坪の貸し工場からスタートしました。当初は信用もお金もないため苦労しましたがめっきの修理から始め、2年目から自動めっき装置の生産を開始。八尾市や羽曳野市で本社移転・拡張をしながら、平成19年に創業の地である東大阪に本社を戻しました。半導体・自動車部品向けめっき装置の販売に力を入れていましたが、平成25年には「ステンめっき」を開発。鉄にニッケルを組み合わせた技術で、ステンレスに近い外観ながら単一の金属被膜では実現できなかった特性を發揮します。めっきの事なら、木田精工にお任せください。

めっきの事なら、木田精工へ。

代表取締役社長 木田 潔さん



■主な事業内容

めっき製造設備および表面処理加工業

■主な取引先（納入先）

自動車部品メーカー、半導体部品メーカー、建築関連部品メーカー

住所 / 〒579-8025
東大阪市市町13-26
TEL / 072-982-4636
FAX / 072-982-4637
創業 / 昭和52年3月
設立 / 平成元年5月
資本金 / 3,000万円
従業員 / 70名

<http://www.kidaseiko.co.jp/>